

マキコリ「薪の未来力」 山本由実

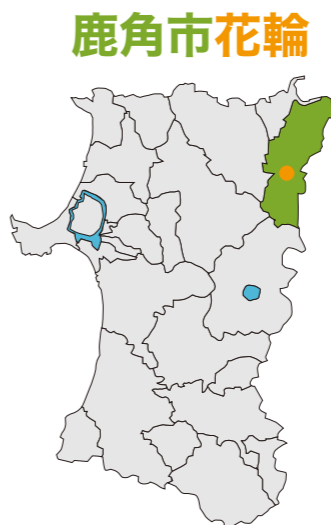
Yamamoto Yumi

自然から頂く
エネルギーの活用



株式会社かづのパワーに勤務している山本由実さん。「かづのパワー」と言われても何をしている会社だろうと思う人も多いはず。2016年4月から始まった新しい制度「電力の小売全面自由化」に伴い、今まで地域の電力会社（東北電力など）から直接買って来た電気を、新規参入の小売業者を選び買える仕組みになりました。「かづのパワー」もそうした電気の小売り業者です。大きな目標としている「電力の地産地消」。そこには山本さんが運営する薪を集める活動「マキコリ」と共通の想いがあるようです。

鹿角市は再生可能エネルギーの自給率が380%を誇る地域。由実さんは仲間と共に2013年「鹿角のエネルギーを考える会」（以後エネかん）を発足し、講演会やイベントを通じて、エネルギーを多角的に捉えながら、日々の暮らしをみんなで考えようと活動して来ました。そして生まれた「マキコリ」の活動。「自分個人がエネルギーに対してできることといえば、冬に大量に消費される熱エネルギーを木



鹿角市花輪



薪わりdojo(道場)Vol.3&リバーサイドビアパーティーの一場面

質に変えることくらいは出来ないという結論に達しました。」県内でも一際、冬の厳しい鹿角。暮らしの中で現実的に考えた時、かつては誰もが自分自身で薪を用意し、冬場のエネルギーを自給することが当然だった薪ストーブを自宅に導入することでした。

「エネかんの勉強会でも木質のバイオマスエネルギーを使いたくてこの会に参加している人は一定数いました。その中で薪ストーブに憧れはあるけど自分で薪を出せるのか、山を持つだけでも管理ができない、などという方々が協力しあい、お互いの私利私欲のために薪を集める活動を始めました。この私利私欲がとても大切で、その結果、社会が抱えている問題の解決に繋がっていくという理想の構図を生み出しました。」
「山から木を切り出しそれを活用できる人材が育てば、山の環境も保たれ里山が守られていく。そうすれば熊だつて里に降りてくる機会も減るでしょ？活動自体の内容もそうだけど、気のおけない仲間と同じ時間を過ごし、自分自身の心がハッピーだと思えることが一番大切です。」
お嫁さんとして秋田へ移住した山本さんですが、自分の居場所を作るべくたくさんの人を巻き込みながら積極的に動き続けることこそ、その土地にとって一番大切なエネルギーなのではないでしょうか。



薪を割る体験に汗をかきます。



家族で参加。子供たちもお手伝い。



薪割が終わったら、お楽しみが待っています。



ビアパーティーで話がはずみます。

